

【生産】 環境制御技術導入による収益性の向上

施設園芸において、環境制御技術を導入し、生産・品質データに基づく改善とノウハウの継承により高品質・多収・安定生産を実現

◆これまでの取組

野菜、果樹、花きの11品目で環境制御技術の確立に取り組み、約70haで技術が導入。いちごでは20%以上の収量向上に結びつくなど施設園芸の収益性を改善

◆残された課題

- ①環境制御機器の導入コストが高く、普及の妨げになっているため、低コストの環境機器を実証し、現地へ普及することが必要
- ②最適な施設内の環境を解析し、AI等を用いて自動で環境を制御する技術の開発が必要
- ③農業者、指導者の技術向上と技術の普及拡大

◆今後の取組

- ①いちごでの長崎型低コスト環境制御機器の実証と普及、及びいちご以外の品目での低コスト機器の導入検討
- ②きくにおけるAIを活用した環境制御技術の確立
- ③農業者、指導者向けの研修会の開催



環境モニタリング装置



炭酸ガス発生装置